

令和4年度第1回史跡めぐり

「大谷資料館・山本有三ふるさと記念館・巴波川周辺散策」

令和4年6月2日（木）実施

1. 「大谷資料館」



コロナの関係で2年間実施できなかった史跡めぐりですが、ワクチン接種などの対策が講じられ久しぶりに再開できました。

区役所横から総勢42名で栃木県宇都宮市の大谷資料館と栃木市を目指して午前8時に出発。早稲田通りが、朝の渋滞のため少し遅れましたが東北道に入ってから順調に走行し、羽生SAで休憩を取り、宇都宮市の大谷資料館へ。道路沿いの石塀にはこれから見学場所でとれた大谷石が使用されていました。

「大谷資料館」には、10時30分に到着。

資料館は、大谷石砕石後の地下空間となっているので、当日の気温は9度と涼しいより寒いくらいでした。

砕石跡の壁を見ると上部のほうは手彫りの跡で下のほうは機械彫りの跡になっていました。大谷石は凝灰岩ということで海底の堆積物が石となった関係で塩が粉のように噴き出ていました。

この場所は映画・テレビドラマの撮影に使用されています。

2. 食事



昼食は、道の駅うつのみやろまんちっく村「麦の楽園」で包み焼きハンバーグ定食をいただきました。

包み焼きの中の野菜とかは美味しかったのですがハンバーグが硬くて少し悪戦苦闘しました。

3. 蔵の街



昼食後は、江戸時代には「日光例幣使街道」の宿場町として、また、街の中心部を流れる「巴波川（うずまがわ）」を利用した舟運交易によって栄えてきた歴史をもつ栃木市に移動。栃木観光ボランティアガイドのお二人と合流し、電柱が地中化されすっきりした街並みと山本有三ふるさと記念館と山本有三のお墓がある近龍寺、そして巴波川周辺を散策しました。

4. 「山本有三ふるさと記念館」



「路傍の石」の一説である「たったひとりしかいない自分を、たった一度しかない人生を、ほんとうに生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいないじゃないか。」で有名な山本有三ふるさと記念館を見学。

この記念館自体は江戸末期に建てられた見世蔵を「山本有三記念会」が改修、整備して平成9年に開館したものです。館内は複数の蔵を繋げたような作りになっています。生家は隣の銀巴里理髪店の場所だそうです。

参議院議員としても活躍し、国立国語研究所の設立や子どもの日などの祝日の制定にも力を尽くしました。また、「当用漢字表」を作る仕事をしたり、国語のいろいろな問題を改善しようと努めたりしました。

記念館から歩いて3分程度のところにある近龍寺にお墓がありました。

5. 巴波川周辺



栃木市内の中心を流れる巴波川は、昔は舟運が盛んで川沿いには、見世蔵（みせぐら・店と住居が一緒になった蔵）などがありました

この街は、江戸時代に栄えた商都の雰囲気味わえることから、“小江戸”とも“小京都”とも称されている人気スポットです。

江戸時代にタイムスリップしたかのような街並みは、映像的にも大変魅力があり、映画やドラマの撮影にも度々登場しています。

CMなどで有名な黒塀がある木材回漕問屋を営んできた豪商の塚田家の邸宅・塚田歴史伝説館などがありました。